

# フェリス女学院大学・バリアフリー推進室

## ☆ノートテイク講習会

### 【学生講師】

- ・ タイミング、ニーズが掴みやすい。
- ・ 対応がしやすい、されやすい。
- ・ 教える立場に立つことで、自らの成長にもつながる。

→peer education & support.

### 【外部講師】

- ・ 学生講師では補いきれない専門知識やマナーを学べる。
- ・ テイクのスタイルや、障害への見方。
- ・ peer education & supportの強化。より厚く強い体制に。

## ☆新入生オリエンテーション

学内の皆に興味を持ってもらうのはもちろん、別世界体験（日頃の生活をいつもと違う視点で体験する）など、単なる宣伝に終わらない工夫をした。サポートなどの取り組みが、「特別」ではなく、日常的な光景になるための、きっかけづくり。サポーターの募集とともに、バリアフリーの浸透を目的とする。

## ☆手話

授業でのサポートだけでなく、コミュニケーションの手段としての手話を、もっと広めたいという声から、企画し実施。手話講座を開くことによって、スキルアップと同時に、手話に興味を持った人が、サポートにかかわるきっかけとなる。

## ☆スクリーン

キリスト教講演会や卒業式など人が多く集まる場で、スクリーンを用いた情報保障をすることで、活動する場を設けること、活動を知ってもらう機会をつくる。

## ☆セクション

2009年度の推進室は、スタッフの中でも中心になって皆を動かすコアスタッフを設け、更にスタッフの育成を特に受け持つセクションを作った。スタッフ育成セクションが存在することで、常に学生自身が日ごろの活動における課題や問題点やニーズを意識でき、発見できる。そしてセクションを中心に動き、形にしていく。

## ☆マニュアル

自分たちのニーズに合ったものを自分たちで作成。学生ならではの有用性のあるつくりをしている。

## ☆データ

コーディネートしやすくするために、スタッフの情報（レベル、サポート経験、履修科目など）を管理し、それとあわせて授業データ（講義形態、教室環境、教室の特徴と利用学生のニーズなど）も作成し、よりよいマッチングを可能にしている。これを学生が作ることで、学生コーディネーターの育成にもつながる。

# All for All

1人が誰かのために、誰かが1人のためにではなく、それぞれの人が感じるバリアをとるために、皆で活躍をする。

押し付けてやらされているのではなく、自分たちが必要だと思って動く！日ごろの活動や周りの様子を見て、自分たちで課題やニーズを見つけ、それを解決したり、実現するために動き、自分たちで形にする。

私達の取り組みは、学生主体、学生目標を基本に行われています。

### 問い合わせ先

フェリス女学院大学バリアフリー推進室

コーディネーター 後藤吉彦 TEL 045-812-8315 / E-mail goto@ferris.ac.jp